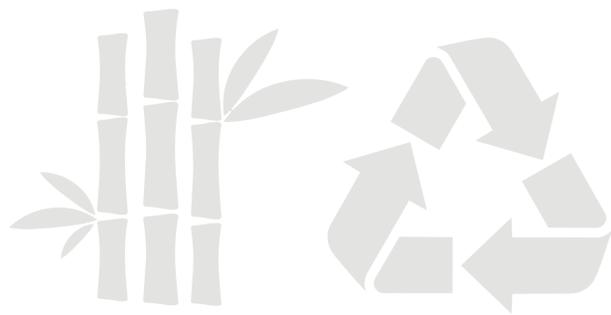


Background



なぜ今・竹なのか？

- ・プラスチック廃棄：約 800 万トン / 年（日本）
- ・環境負荷の高い素材の見直しが加速
- ・竹は 3～5 年で成長 / 再生可能素材
- 自然由来 / 生分解性 / 高い 二酸化炭素吸収量
- 放置竹林による「竹害」の問題も / 伝統工芸の担い手問題も



「環境配慮の代替素材としての可能性と、竹だからこそ生まれる構造と造形の両立」を目指しました。

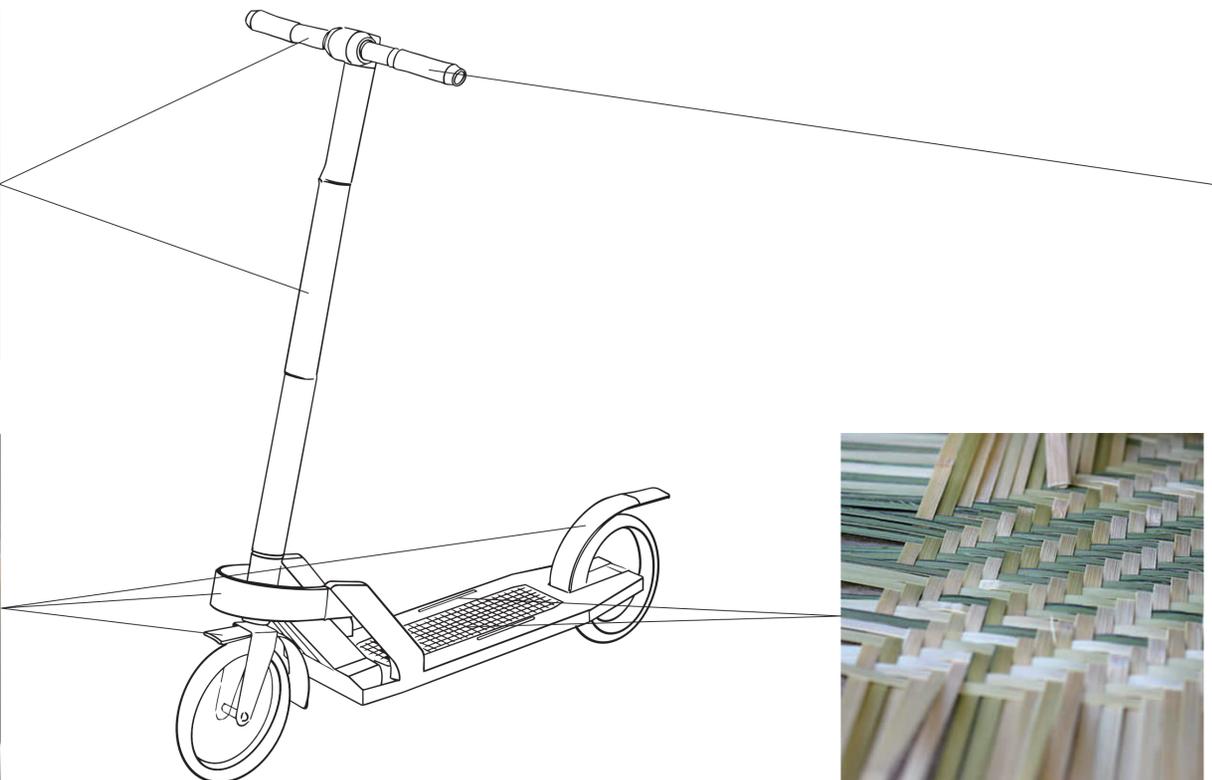
Material Approach



・丸竹



・曲げ竹



・竹細工に使われる籐



・竹編み（ひご）



・竹の集成材

Bamboo Fiber



実は、本作品の黒くマットなパーツたちも竹を元に製作することが可能です。それには、バンブーファイバーという素材に秘密があります。

バンブーファイバーとは、竹の繊維を粉碎し、樹脂で固め直して作られた再生素材です。合成素材の使用量が少ないサステナブルな新素材として注目されています。非常に軽く、耐久性にも優れています。プラスチックとは異なり製造時に石油を使わないため、CO2などの温室効果ガスの排出量を減らせます。また廃棄の際、燃焼させてもダイオキシンなどの有害物質が発生しません。そしてこれらの要素を持ちながらプラスチックのような自由形状が可能であり、今後様々な製品に使用されることが期待されています。

*本作品ではバンブーファイバーである想定で合成樹脂を使用しています。

Photo

